

# NYのスタートアップで熱い「女性」「ブルックリン」の2大キーワード

By 安部かすみ - 2015-06-30



今、日本でもアメリカでもIT系スタートアップが熱い。アメリカといえば誰もがシリコンバレーを想像するだろうが、東海岸のシリコンバレーは、ここニューヨーク（シリコンアレー）。そして最近の傾向として、特に「女性起業家」と「ブルックリン」という2つのキーワードがトレンドだ。

## 女性起業家がこの5年で倍近くに

ニューヨークのスタートアップ熱を表すかのように、この街ではほぼ毎日、テック系のイベントが開催されている。「世界や社会を変えたい」と野望を持つ若きアントレプレナーたちが集まるとは、コネクションを広げたり情報交換をしたりしている。しかしスタートアップは、何も男性起業家だけによるものではない。最近のアメリカのスタートアップを語る上で特徴的なのは、女性起業家の目覚ましい進出だ。



コンピュータとwifi、それにアイデアさえあれば、どこでも起業ができる時代。

スタートアップ・データベース「CrunchBase」（クランチベース）によると、2009年から14年までの間に、全米のスタートアップの1万4341社が資金調達に成功しており、このうちの2226社は創業者のうち少なくとも一人が女性ということだ。

この数字は全体から見るとまだ少ないが、米ニュースサイト『TechCrunch（テッククランチ）』は先月、「スタートアップの女性創業者数の推移は目覚ましく、09年の時点で全体の9.5%にすぎなかったのが、昨年の統計では倍近くの18%に増えており、これはまさにトレンドだ」と報じた。会社の数にすると、女性創業者によるスタートアップは09年は117社だったのが、昨年には555社と約4倍に膨れ上がっている。

ニューヨーク市だけにフォーカスしてみると、女性創業者によるスタートアップ数は昨年末までの時点で374社で、市内全体の21%を占めており、同メディアは「この数はシリコンバレーの338社（同16%）よりも多い数だ」とした。

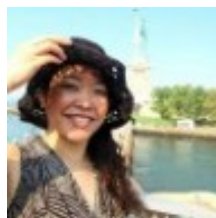


月例で開催されているテック系イベントでは全米最大規模の「NY Teck Meetup」（ニューヨークテックミートアップ）。入場券がいつもすぐ完売になるほどの人気。

(C)Kasumi Abe

LINE LINEで送る

1 2 >



安部かすみ

編集者、ライター。1994年から2001年まで、日本の出版社で編集者として勤務、02年よりニューヨーク在住。07年から14年まで、在NYの出版社でシニアエディターとして勤務。退職後は様々な日本語メディアでNY情報を発信中。日米での編集者歴21年。